

彩の国
埼玉県



令和4年度

業 務 報 告

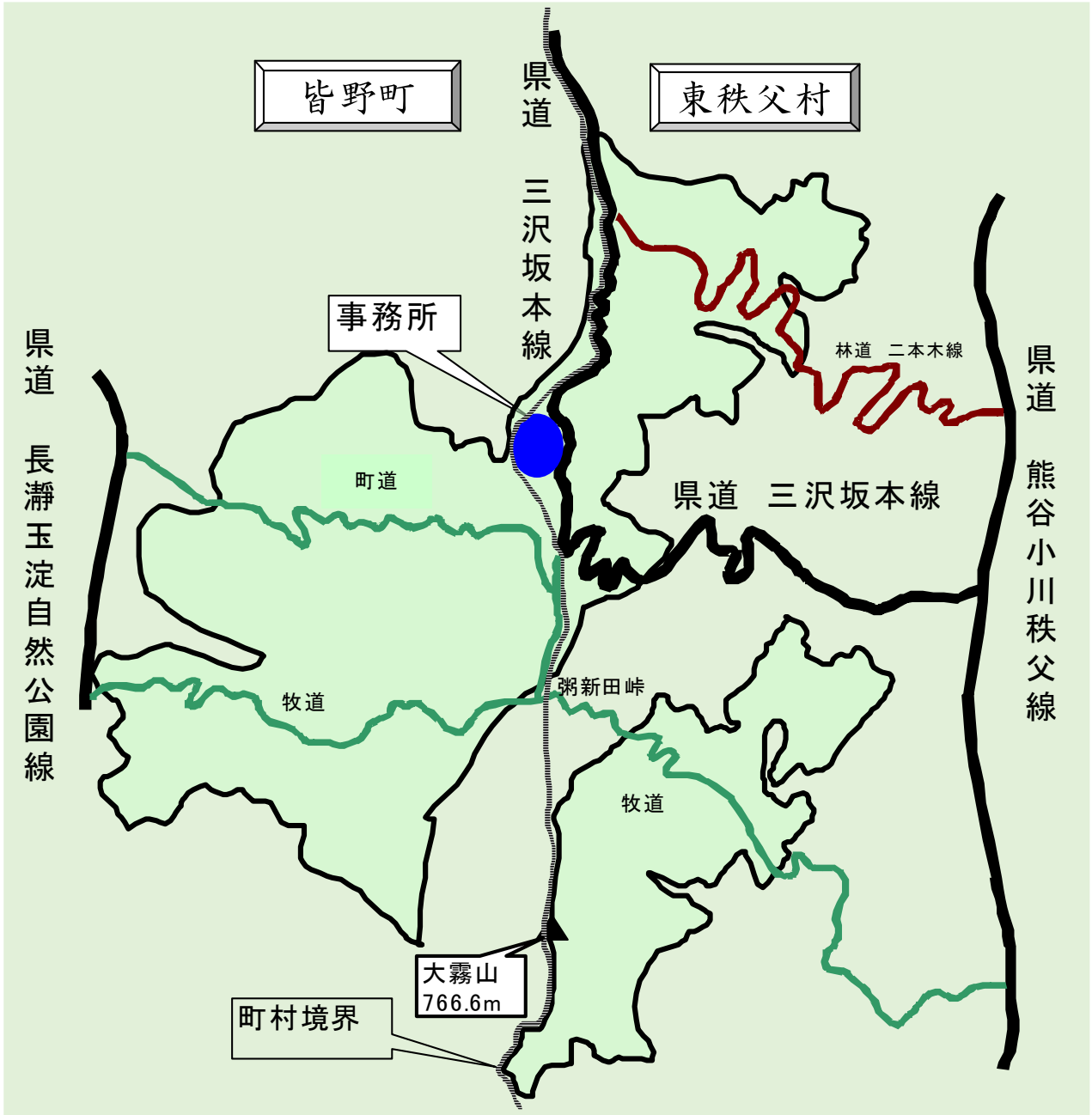
埼玉県秩父高原牧場
彩の国ふれあい牧場

目次

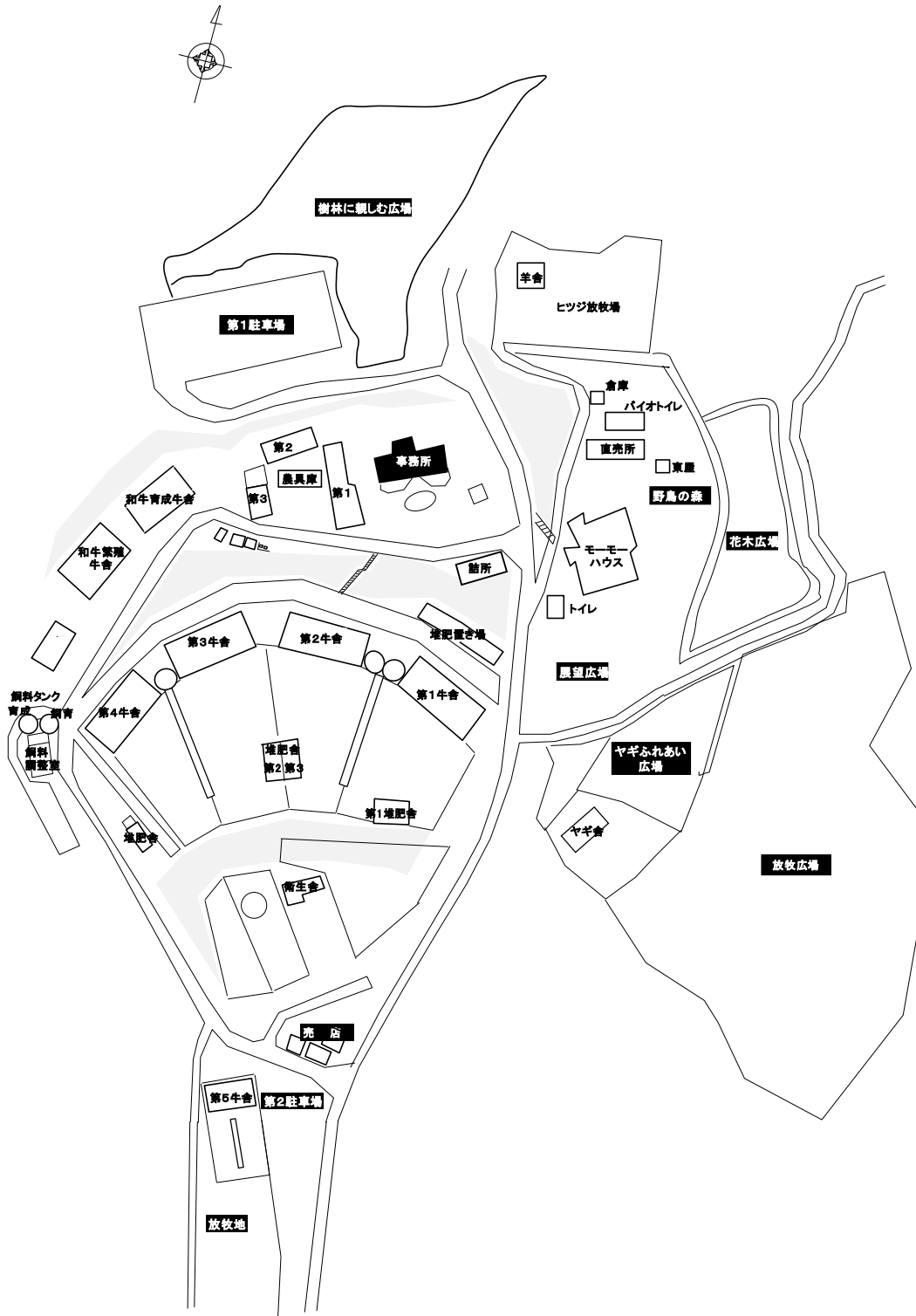
ページ

| | |
|---------------------|----|
| 位置図 | 1 |
| 牧場事務所周辺建物配置図 | 2 |
| 第1章 総説 | |
| 1 沿革 | 3 |
| 2 位置及び交通 | 4 |
| 3 地勢及び地質 | 4 |
| 4 気象 | 4 |
| 5 土地の概要 | 4 |
| 6 用地の使用区分 | 5 |
| 7 施設及び機械器具 | 5 |
| 8 機構 | 7 |
| 9 歳入歳出の執行状況 | 8 |
| 第2章 家畜管理事業 | |
| 1 概要 | 9 |
| 2 家畜管理 | 10 |
| （1）家畜飼養頭数 | 10 |
| （2）譲渡成績 | 10 |
| （3）受託牛入牧状況 | 12 |
| （4）発育成績 | 12 |
| （5）繁殖成績 | 12 |
| （6）衛生関係 | 14 |
| 第3章 草地管理事業 | |
| 1 概要 | 16 |
| 2 草地管理 | 16 |
| （1）生産量 | 17 |
| （2）施肥 | 17 |
| 3 草地更新及び飼料作物作付実績 | 18 |
| 第4章 彩の国ふれあい牧場運営状況 | |
| 1 概要 | 19 |
| 2 ふれあい動物の管理 | 19 |
| 3 花にあふれる牧場づくり | 19 |
| 4 モーモーハウスの入館者数 | 19 |
| 5 彩の国ふれあい牧場への入り込み客数 | 20 |
| 6 牛乳を利用した体験実習等実績 | 21 |
| 7 イベントの開催 | 21 |
| 第5章 施設整備実施状況 | |
| 1 概要 | 22 |
| 2 実績及び計画 | 22 |

位置図



牧場事務所周辺建物配置図



第 1 章 総説

1 沿革

- 昭和 38 年度～42 年度
県営牧場建設候補地として、秩父郡皆野町及び東秩父村にまたがる地域の他、小鹿野町吉田町、秩父市、大滝村等 4 地域について「草地開発基本調査」を実施。
- 昭和 43 年 4 月
調査結果から皆野町、東秩父村を予定地として選定し、両町村に説明、協力を要請し現在地決定
- 昭和 43 年 11 月
県は牧場建設の推進を図るため、皆野町旧三沢村役場庁舎に「二本木乳牛育成牧場準備事務所」を設置し調査、測量、設計、建設計画の作成、用地買収等を開始。
- 昭和 43 年度～44 年度
共同利用模範牧場設置事業に基づく調査機関として農林省に協力し、牧場予定地 480ha の調査並びに「共同利用模範牧場設置計画」の作成。
- 昭和 45 年度～47 年度
農地開発機械公団が農林省の委託を受けて開設、昭和 46 年度から県が管理運営を行う。
(1) 公団施行分 653,500 千円 (草地造成 231.22ha、道路 9,264.8m、畜舎、機械施設外)
(2) 県単施行分 681,515 (買収 218.23ha、借地 133.59ha)
(3) 道 路 160.208
計 1,495,223
- 昭和 48 年 4 月
施設竣工に伴い、名称を「埼玉県秩父高原牧場」に改称し、正式に牧場業務開始 (4 月 11 日開場式)
開場に伴い場長、次長、庶務、家畜、草地の三課 20 名の組織が確立された。
- 昭和 49 年 2 月
現庁舎 (600 m²、77,189 千円) が新築落成。
- 昭和 52 年度～57 年度
公共育成牧場整備事業
総事業費 539,569 千円
牧場の生産基盤を整備して、牧養力の向上を図るため「公共育成牧場整備事業」により、草地造成改良、道路整備改良、施設及び機械の整備強化を図った。
- 昭和 63 年度～平成元年度
公共育成牧場基盤整備事業
総事業費 90,735 千円
第 2 回公共育成牧場基盤整備事業実施で、草地、道路の整備改良と、施設及び機械の整備強化を図ることにより牧養力の向上に努めた。
- 平成 2 年度～8 年度
秩父高原牧場機能強化事業
優良な乳用・肉用後継牛の確保により、酪農及び肉用牛経営の安定化を図るため、牧場機能を充実した。
総事業費 605,707 千円
- 平成 5 年度～8 年度
彩の国ふれあい牧場施設整備事業
牧場の一部(7ha)を開放し、モーモーハウス、遊歩道、樹林に親しむ広場等を計画的に整備し、牧場の多面的機能を活用し、県民に憩いの場を提供した。
総事業費 390,028 千円
埼玉県ふれあい牧場 (条例施行 平成 9 年 4 月 1 日 開場 平成 9 年 5 月 18 日)

- 平成 9 年度～12 年度
団体営公共牧場整備事業
草地、牧道、牧柵を整備改良し、高品質な飼料の増産と作業の安全を図った。
総事業費 163,898 千円
- 平成 20 年度～24 年度
秩父高原牧場機能強化緊急対策事業（自給飼料生産施設整備事業）
牧草地、農業用機械、遊歩道等の整備を行い、高品質飼料の効率的生産及び施設の充実を図った。
総事業費 82,583 千円
- 平成 23 年度～30 年度
秩父高原牧場機能強化緊急対策事業（牛舎等施設整備事業）
老朽化した牛舎及びふれあい牧場の施設改修を行う。
総事業費 210,276 千円
- 平成 26 年度～30 年度
埼玉の肉牛を守り、育てる生産構造転換事業
牛舎改修、機器等の整備を行い、和牛授精卵の採胚・受託牛等への移植、その子牛（2～4 日齢）の購入・譲渡（概 10 ヶ月齢）により、県内和牛生産の拡大を図る。
総事業費 166,396 千円
- 平成 29 年度
秩父高原牧場地域交流施設整備事業
新たに県産農畜産物直売所や動物とのふれあいコーナーなどの地域交流施設を整備することで、本県の畜産に対する県民の理解をさらに深めるとともに、一層の地域振興を図る（地方創生拠点整備交付金を活用）。
総事業費 99,509 千円
- 令和元年度～2 年度
令和元年度農地農業用施設災害復旧事業
令和元年 10 月 12 日に発生した台風 19 号により被災した牧場管理道及び採草地の復旧を図る。
総事業費 135,223 千円

2 位置及び交通

牧場事務所及び施設等の所在地

埼玉県秩父郡東秩父村大字坂本 2951 番地

交通

- ◎ 秩父鉄道親鼻駅下車、西武バス三沢廻り、秩父行、病院前下車 徒歩 90 分
- ◎ 東武東上線、八高線小川町駅下車、イーグルバス白石車庫行、橋場下車 徒歩 90 分

3 地勢及び地質

牧場は、二本木峠から粥仁田峠を経て大霧山に至る 4.2km の稜線上を東西 2.9km にまたがる地域で、表層土は秩父古生層系火山灰、通称関東ローム層と呼ばれる土壌と、一部には蛇紋岩の風化した土壌に覆われている。

4 気象

標高 270m から 766m にわたる地域で、やや高冷地に属している。気温は平地に比べ 3～4 度低いうえ、霧の発生も比較的多いが、冬期の積雪量は少ない。

5 土地の概要

総面積 351.82ha（県有地 218.23ha、借地 133.59ha）

内秩父郡皆野町分 223.34ha

秩父郡東秩父村分 129.48ha

草地は、昭和45年から昭和47年に造成されたが、急傾斜地、石礫の多いことに加えて起伏が多く、不陸がさくそうしている。造成面積は次のとおりである。

1～2級地（傾斜度 0°～15°）52.92ha 機械造成。3級A地（傾斜度 16°～20°）49.71ha 機械と人力の併用造成。3級B地（傾斜度 20°以上）128.56ha 人力造成。

6 用地の使用区分

（令和5年度3月31日現在）

| 区分 | 草地 | | 計 | 樹林地 | その他 | 合計 |
|------|---------|--------------|----------|---------|-------------|----------|
| | 採草地 | 放牧地 (野草地) | | | (基地) 道路等 | |
| 管理面積 | 27.16ha | 207.03ha | 234.19ha | 94.20ha | 23.53ha | 351.82ha |

7 主な施設及び機械器具

○ 給水施設は、皆野町三沢川の支流、高府地川に揚水所を設け、高圧多段式ポンプ（実揚程289m）で山頂の貯水タンク（200 m³）に送水。これを濾過殺菌して牧場全体に配水している。

（1）施設

（令和5年3月31日）

| 区 分 | 数量等 | 備 考 |
|----------|-------------------------|--|
| 事 務 所 | 600.02 m ² | 鉄筋コンクリート造 大屋根 2階モルタル仕上 |
| 監 視 舎 | 116.93 m ² | 詰め所 |
| 畜 舎 | 3,829.03 m ² | 育成牛舎 4・避難舎 5・肉用分娩牛舎 1・肉用育成牛舎 2 |
| 衛 生 舎 | 93.80 m ² | 衛生舎・牛舎 |
| 農 具 庫 | 672.13 m ² | 第1農具庫・第2農具庫・農機具収納庫・車庫 2 |
| 飼 料 庫 | 191.67 m ² | 飼料庫 90 m ² ・粗飼料庫 101.67 m ² |
| 給 餌 舎 | 147.8 m ² | 2棟 |
| 汚水処理施設 | 一 式 | 原水槽 252 m ² ・曝気槽 308 m ² ・調整槽 696 m ² ・中継槽 353 m ² |
| 燃 料 庫 | 12.15 m ² | |
| 給 油 所 | 一 式 | ガソリン 1,000 ㍓・軽油 2,000 ㍓ |
| サ イ ロ | 7 基 | タワー 内径 5m 高さ 12m 3基(休止) バンカー 巾 3.5m×高さ 3m×長さ 16m 1基(2槽式) バンカー 巾 3.5m×高さ 3m×長さ 10m 1基 バンカー 巾 4.0m×高さ 3m×長さ 11.25m 2基 |
| 給 水 施 設 | 一 式 | 高圧多段揚水ポンプ 2基・給水タンク 200t 1基・配水管延長 12,900m |
| トラックスケール | 一 式 | レバートロニクス式 30t 計量 3×8m |
| 隔 障 物 | 87,402 m | 牧柵 |
| 道 路 | 12,516 m | 幹線道路 5,443m・管理道路 7,073m |
| 駐 車 場 | 2,651.00 m ² | 1か所 89台収容 |

| | | |
|----------|-------------------------|--------------------------------|
| トイレ | 17.16 m ² | 1 棟 |
| 遊歩道 | 804 m | |
| 木柵 | 2,582 m | 3、5 段張り(杉材) |
| 多目的広場 | 5,000.00 m ² | |
| モーターハウス | 599.02 m ² | 木造一部鉄骨フッ素樹脂鋼板(事務室、展示室、研修室、実習室) |
| 動物飼育舎 | 66.24 m ² | 非木造 |
| 浄水施設 | 一式 | 急速砂層濾過装置 1 基・貯水槽 23t・膜濾過装置(飲用) |
| 第1堆肥舎 | 103.68 m ² | |
| 第2、第3堆肥舎 | 207.36 m ² | |
| 堆肥舎 | 50.00 m ² | |
| 羊舎 | 68.00 m ² | |
| 倉庫 | 11.05 m ² | |
| 直売所 | 39.74 m ² | |
| バイオトイレ | 9.93 m ² | |

(2) 主な機械器具

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

| 品名 | 数量 | 規格 | 用途 |
|---------------|----|--|------------|
| 普通貨物自動車 | 3 | 日野FX2AB、日産ディーゼルMF211、三菱パジェロ(スノープレウ付) | 全般 |
| トラクター | 7 | マッセファーガソンMF290、フォート4100(2台)、7840、8210、ニューホラントT6-175・T6-155 | 全般 |
| クローラ型トラクター | 1 | 小松D20 | 整地・造成 |
| スキッドステアローダー | 3 | ホブキャットローダー1台、トヨタL&F5SDK10、ニューホラントL318 | 牛ふん搬出 |
| ホイールローダー | 2 | 三菱WS500A11、キャタピラー907M | 全般 |
| バックホー | 1 | 三菱WS500A11アタッチ | 掘削 |
| 牛衡機 | 2 | IRPD2000、E・2000s | 牛の体重測定 |
| 給水ポンプエンジン | 1 | 富士重工製 | 給水 |
| ラウンドベラー | 1 | ニューホラント120×140モデル848 | 牧草の収穫 |
| ラッピングマシーン | 1 | NR301 | 牧草の収穫 |
| 簡易草地更新機 | 2 | ニプロPRN801、クボタ3P806NT | 草地の簡易更新 |
| マニアスプレッダ | 1 | mf19-130B | 堆肥散布 |
| 普通貨物自動車(ユニック) | 1 | 三菱2.9tセルフクレーン | 重量物の積降し・輸送 |
| 小型貨物自動車 | 3 | 三菱キャンター、三菱ミニキャブ、日産パネット | 全般 |
| 普通乗用自動車 | 3 | 三菱パジェロ、ホンダCRV、三菱デリカ | 家畜管理 |
| ソフトサーバー | 1 | 日世(株)製 | アイスクリーム製造 |

| | | | |
|-------------|---|-------------------|----------|
| ベールラッパー | 1 | TWM1610 (株)IHIスター | 牧草の収穫 |
| カッティングローラー | 1 | BR7060 ニューホランド | 牧草の収穫 |
| モア コンディショナー | 1 | FC 303GC | 牧草の収穫 |
| ハンマーナイフモア | 1 | SH1550A | 雑灌木の刈り払い |
| テッダー | 1 | クーンHFT502 | 牧草の収穫 |
| ディスクモア | 1 | クーンHFT500 | 牧草の収穫 |
| 超音波画像診断装置 | 1 | 富士平HS-101VN | 妊娠鑑定 |
| ガス滅菌機 | 1 | ES0-S-3A | 器具殺菌 |
| プログラムフリーザー | 1 | 富士平ペルチェETフリーザー | 受精卵保存 |

8 機構

(1) 組織と業務内容（令和5年3月31日現在）



(2) 職員名簿

令和5年3月31日現在

| | | | | | |
|---------|---------|-------|---------|---------|--------|
| 総務 | 場長(技) | 斉藤 任亮 | 育成・ふれあい | 担当課長(技) | 油井 武 |
| | 担当課長(事) | 逸見 英雄 | | 担当課長(技) | 土門 尚貴 |
| 育成・ふれあい | 担当部長 | 亀田 光澄 | | 主任(技) | 矢野 寛 |
| | | | | 主任(技) | 杉山 豊 |
| | | | | 主任(技) | 野澤 智浩 |
| | | | | 主任(技) | 山中 梨沙 |
| | | | | 技師 | 成田 将之 |
| | | | | 技師 | 留場 寛子 |
| | | | | 技師 | 矢島 裕介 |
| | | | | 専門員 | 宇田川 浩一 |
| | | | | 嘱託(非常勤) | 新井 清一 |

9 歳入歳出の執行状況（秩父高原牧場執行分）

(1) 歳入

| 区 分 | 金額(千円) | 備 考 |
|-------------|---------|--------------|
| 行政財産使用料 | 253 | 電柱等敷地料他 |
| 畜産業使用料 | 29,320 | 受託牛育成料 |
| 畜産業手数料 | 593 | 人工授精料他 |
| 土地建物貸付収入 | 48 | 農産物直売所等用地貸付料 |
| 物品売払収入 | 828 | 不用物品売払他 |
| 生産物及び物品売払収入 | 25,019 | 育成牛譲渡代他 |
| 雑入 | 276 | 農産物直売所水道料他 |
| 県債 | 25,000 | 産経機械、行政改革推進債 |
| 一般財源 | 42,909 | |
| 歳入合計 | 124,246 | |

(2) 歳出

| 区 分 | 金額(千円) | 備 考 |
|----------|---------|------------------------|
| 旅費 | 596 | |
| 需用費 | 72,392 | 飼料費、修繕費、燃料費他 |
| 役務費 | 4,732 | 通信運搬費、手数料他 |
| 委託料 | 4,451 | 三沢橋補修工事設計、浄化槽点検他 |
| 使用料及び賃借料 | 5,505 | 牧場用地借上料、トラックリース料他 |
| 工事請負費 | 22,935 | 三沢橋補修工事 |
| 備品購入費 | 10,196 | ステッドステアローダー 簡易耕地更新機 |
| 負担金 | 72 | 地域交流牧場会費他 |
| 補償補填 | 3,077 | 委託育成牛事故補償 |
| 公課費 | 290 | 公用車車検 |
| 歳出合計 | 124,246 | |

(会計年度任用職員の給与費等は除く)

第2章 家畜管理事業

1 概要

県内の酪農家から乳用雌牛（生後6～12か月齢）を受託し、育成と人工授精、胚移植を行い、酪農家の経営の基礎となる優良後継牛の供給を行っている。

育成管理は、4月から10月の放牧飼育、11月から3月の舎飼飼育に大別される。

平成元年度からは、県外肉牛産地から導入した繁殖肉用基礎雌牛（黒毛和種）を基に、生産された産子を県内の肉用牛農家に譲渡し、肉用牛生産振興を図っている。

また、平成27年度から、当該における和牛子牛の生産力を強化し、県内肉用牛農家等へ和牛子牛を安定的に供給することで和牛生産基盤の強化を図ることを目的に、「埼玉の肉牛を守り・育てる生産構造転換事業」を開始、現在も事業内容は継続実施している（肉牛事業）。

(1) 受託育成牛

新規受託育成牛114頭、前年度からの継続受託育成牛（周年牛）119頭、計223頭を受託育成した。

(2) 県有牛育成事業（ホルスタイン種）

令和2年度に買い上げた3頭のうち2頭を県内酪農家に譲渡した。1頭については、牧場生産胚を移植し受胎を確認した。また、令和4年度は新たに4頭の子牛を県内酪農家から買い上げた（平均買取価格200,000円）。

(3) 優良肉用基礎牛（黒毛和種、日本短角種）

黒毛和種について、宮崎県産導入牛6頭（20年度3頭、27年度3頭）、当該生産牛23頭、日本短角種6頭の計39頭を飼養、うち35頭を繁殖に供し、16頭が分娩した。肥育素牛及び繁殖雌牛として13頭を県内の肉用牛農家等に譲渡した。

また、令和4年度公共牧場機能強化等体制整備事業で、新たに宮崎県産繁殖雌牛を3頭導入した。

(4) 肉牛事業

当該生産黒毛和種胚を移植、受胎した受託牛の産子を2～3日齢で買上げ、育成し、県内の肉用牛農家に譲渡している。令和4年度は39頭を買上げ（平均買取価格302,154円）、肥育素牛及び繁殖雌牛として35頭を県内の肉用牛農家等に譲渡した。また、雌牛2頭を優良肉用基礎牛として場内での供用を開始した。

(5) 人工授精及び胚移植

繁殖対象牛は、14か月齢、体高125cm、体重340kgを目安とし、被乗駕行動を主体に発情の発現状況を観察し、適期と思われる時期に人工授精、胚移植を行っている。

(6) 受託牛の募集及び選定

受託牛の募集及び入牧牛の選定、入牧時検査等については各家畜保健衛生所の協力を得て実施した。

(7) 衛生管理

衛生対策プログラムに基づき定期的に衛生検査を実施し、ヒポフラスマ病、肺炎等の発生防止、治療等に努めた。

(8) 放牧

周年受託育成牛および県有和牛（黒毛和種、日本短角種）は4月から再放牧を開始した。新規受託育成牛は、4月下旬から各群2週間程度の馴致放牧を実施し、その後全放牧（昼夜放牧）とした。

2 家畜管理

(1) 家畜飼養頭数

受託牛の令和4年度月別飼養状況は下記のとおりである。(月末頭数)

※県有牛(ホルスタイン)は除外

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| R2年度 | 7 | 5 | 5 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| R3年度 | 102 | 99 | 94 | 90 | 84 | 76 | 70 | 52 | 39 | 37 | 24 | 18 |
| R4年度 | 4 | 11 | 13 | 36 | 37 | 56 | 79 | 85 | 90 | 97 | 100 | 111 |

(2) 譲渡成績

ア ホルスタイン種

令和4年度は2頭の譲渡を行った。

イ 黒毛和種

譲渡月齢は概ね9か月齢である。繁殖用黒毛和種および日本短角種が分娩した産子のうち、雄(去勢)及び雌を肥育素牛として10頭、繁殖雌牛として3頭、合計13頭を譲渡した。

また、肉牛事業対象では、肥育素牛として28頭、繁殖雌牛として7頭、合計35頭を譲渡した。個体別の系統、譲渡価格等は表2のとおりである。

表2 県有黒毛和種譲渡牛一覧
(表区分の新規は新規肉牛事業)

| No. | 新規 | 名号 | 性別 | 区分 | 生年月日 | 父 | 2代祖 | 3代祖 | 譲渡日 | 譲渡価格 |
|-----|----|----------|----|----|----------|-------|---------|--------|----------|---------|
| 1 | | たかちちぶ244 | 雌 | 繁殖 | R3.7.4 | 安福久 | 忠富士 | 福之国 | R4.4.26 | 559,747 |
| 2 | ○ | しんちちぶ126 | 雌 | 肥育 | R3.7.7 | 花国安福 | 平茂勝 | 紋次郎 | R4.4.26 | 550,130 |
| 3 | ○ | しんちちぶ127 | 雌 | 繁殖 | R3.8.4 | 福之姫 | 忠富士 | 安平 | R4.5.25 | 547,041 |
| 4 | | 埼玉高牧313 | 雄 | 肥育 | R3.8.9 | 美国桜 | 平茂勝 | 紋次郎 | R4.5.25 | 642,101 |
| 5 | ○ | しんちちぶ128 | 雌 | 繁殖 | R3.8.9 | 福之姫 | 忠富士 | 安平 | R5.5.31 | 531,695 |
| 6 | ○ | 新高牧135 | 雄 | 肥育 | R3.8.11 | 福之姫 | 忠富士 | 安平 | R4.5.25 | 729,100 |
| 7 | ○ | しんちちぶ129 | 雌 | 肥育 | R3.8.26 | 花国安福 | 平茂勝 | 紋次郎 | R4.5.25 | 550,952 |
| 8 | ○ | しんちちぶ130 | 雌 | 繁殖 | R3.8.29 | 福之姫 | 忠富士 | 安平 | R5.5.31 | 501,666 |
| 9 | ○ | しんちちぶ131 | 雌 | 肥育 | R3.8.30 | 福之姫 | 忠富士 | 安平 | R4.6.21 | 523,136 |
| 10 | | たかちちぶ245 | 雌 | 肥育 | R3.9.6 | 光平照 | 平茂勝 | 福之国 | R4.6.22 | 559,950 |
| 11 | ○ | しんちちぶ132 | 雌 | 肥育 | R3.9.16 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.6.22 | 546,772 |
| 12 | ○ | しんちちぶ133 | 雌 | 繁殖 | R3.9.20 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.7.27 | 416,602 |
| 13 | | 埼玉高牧314 | 雄 | 肥育 | R3.9.21 | 安福久 | 忠富士 | 福之国 | R4.6.22 | 579,599 |
| 14 | | たかちちぶ246 | 雌 | 繁殖 | R3.10.19 | 隆安国 | 安福久 | 勝忠平 | R4.7.27 | 388,999 |
| 15 | ○ | 新高牧136 | 雄 | 肥育 | R3.10.24 | 花国安福 | 平茂勝 | 紋次郎 | R4.7.27 | 571,564 |
| 16 | | たかちちぶ247 | 雌 | 繁殖 | R3.10.26 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.7.27 | 467,933 |
| 17 | ○ | 新高牧137 | 雄 | 肥育 | R3.10.29 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.7.27 | 587,738 |
| 18 | ○ | 新高牧138 | 雄 | 肥育 | R3.11.4 | 花国安福 | 平茂勝 | 紋次郎 | R4.8.24 | 662,331 |
| 19 | ○ | しんちちぶ135 | 雌 | 繁殖 | R3.11.8 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.8.24 | 415,409 |
| 20 | ○ | 新高牧139 | 雄 | 肥育 | R3.11.12 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.8.24 | 605,422 |
| 21 | ○ | しんちちぶ136 | 雌 | 繁殖 | R3.11.13 | 福之姫 | 忠富士 | 安平 | R4.8.24 | 523,646 |
| 22 | ○ | 新高牧140 | 雄 | 肥育 | R4.11.14 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.8.24 | 593,805 |
| 23 | ○ | しんちちぶ137 | 雌 | 繁殖 | R4.11.15 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.8.24 | 502,929 |
| 24 | | たかちちぶ249 | 雌 | 肥育 | R4.12.2 | 隆安国 | 美国桜 | 忠富士 | R4.11.30 | 491,242 |
| 25 | ○ | 新高牧141 | 雄 | 肥育 | R4.12.10 | 福勝鶴 | 安福久 | 勝忠平 | R4.9.28 | 490,357 |
| 26 | ○ | 新高牧142 | 雄 | 肥育 | R4.12.27 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.10.12 | 585,734 |
| 27 | ○ | 新高牧143 | 雄 | 肥育 | R4.1.2 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.10.26 | 536,996 |
| 28 | | たかちちぶ250 | 雌 | 肥育 | R4.1.18 | 紀多福 | 美徳国 | 福之国 | R4.10.26 | 396,257 |
| 29 | ○ | 新高牧144 | 雄 | 肥育 | R4.2.11 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.11.30 | 534,202 |
| 30 | ○ | 新高牧145 | 雄 | 肥育 | R4.2.13 | 幸紀雄 | 福之国 | 福桜(宮崎) | R4.11.30 | 541,925 |
| 31 | ○ | 新高牧146 | 雄 | 肥育 | R4.3.6 | 福之姫 | 勝平正 | 福之国 | R4.12.20 | 432,968 |
| 32 | ○ | 新高牧147 | 雄 | 肥育 | R4.3.9 | 福之姫 | 安福久 | 勝平正 | R4.12.20 | 402,712 |
| 33 | ○ | しんちちぶ138 | 雌 | 肥育 | R4.3.18 | 関平照 | 糸福(鹿児島) | 平茂勝 | R4.12.27 | 314,538 |
| 34 | ○ | しんちちぶ139 | 雌 | 肥育 | R4.3.20 | 幸紀雄 | 福之国 | 福桜(宮崎) | R4.12.20 | 339,104 |
| 35 | | 埼玉高牧315 | 雄 | 肥育 | R4.3.28 | 隆之国 | 忠富士 | 安平 | R4.12.27 | 498,237 |
| 36 | ○ | 新高牧148 | 雄 | 肥育 | R4.3.28 | 関平照 | 糸福(鹿児島) | 平茂勝 | R4.12.20 | 484,714 |
| 37 | ○ | 新高牧149 | 雄 | 肥育 | R4.3.31 | 隆安国 | 忠富士 | 安平 | R5.1.31 | 411,961 |
| 38 | ○ | 新高牧150 | 雄 | 肥育 | R4.4.10 | 福之姫 | 安福久 | 勝平正 | R5.1.31 | 521,344 |
| 39 | | たかちちぶ252 | 雌 | 肥育 | R4.4.16 | 隆安国 | 第2平茂勝 | 安平 | R5.1.31 | 481,788 |
| 40 | ○ | 新高牧151 | 雄 | 肥育 | R4.4.18 | 幸紀雄 | 福之国 | 福桜(宮崎) | R5.1.31 | 503,007 |
| 41 | ○ | 新高牧152 | 雄 | 肥育 | R4.4.20 | 関平照 | 糸福(鹿児島) | 平茂勝 | R5.1.31 | 460,897 |
| 42 | | 埼玉高牧316 | 雄 | 肥育 | R4.4.29 | 耕富士 | 安福久 | 勝忠平 | R5.1.31 | 644,873 |
| 43 | ○ | しんちちぶ140 | 雌 | 肥育 | R4.5.3 | 関平照 | 糸福(鹿児島) | 平茂勝 | R5.2.21 | 467,479 |
| 44 | ○ | 新高牧153 | 雄 | 肥育 | R4.5.21 | 百合白清2 | 福桜(宮崎) | 福之国 | R5.2.22 | 485,064 |
| 45 | ○ | 新高牧154 | 雄 | 肥育 | R4.5.22 | 関平照 | 糸福(鹿児島) | 平茂勝 | R5.2.21 | 521,828 |
| 46 | | たかちちぶ253 | 雌 | 肥育 | R4.5.28 | 光平照 | 糸福(鹿児島) | 平茂勝 | R5.2.21 | 395,162 |
| 47 | ○ | しんちちぶ141 | 雌 | 肥育 | R4.6.7 | 幸紀雄 | 福之国 | 福桜(宮崎) | R5.3.22 | 372,557 |
| 48 | | たかちちぶ254 | 雌 | 肥育 | R4.6.29 | 紀多福 | 安福久 | 勝平正 | R5.3.22 | 317,222 |

(3) 受託牛入牧状況

入牧状況は表3のとおり、随時入牧を行い、延べ22戸の農家から合計114頭の牛を受託した。

表3 令和4年度 受託牛入牧状況

| | 入牧回数 | 市町村数 | 戸数(延べ) | 頭数 |
|-----|------|------|--------|-----|
| 4月 | 2 | 3 | 3 | 4 |
| 5月 | 4 | 5 | 5 | 7 |
| 6月 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 7月 | 7 | 8 | 10 | 23 |
| 8月 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 9月 | 4 | 7 | 7 | 19 |
| 10月 | 3 | 2 | 3 | 22 |
| 11月 | 3 | 3 | 3 | 6 |
| 12月 | 4 | 4 | 4 | 5 |
| 1月 | 2 | 4 | 4 | 8 |
| 2月 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| 3月 | 3 | 5 | 5 | 14 |
| 計 | 36 | 14 | 22 | 114 |

(4) 発育成績

発育状況を把握するため、入牧時より放牧期1回、舎飼期1回体重を測定した。令和4年度牛の随時入牧時平均月齢は、7.7ヶ月であり、随時入牧牛の体重平均は244.1kgであった。

入牧牛の12月までの日増体重は374.2g、平均体重268.1kgであった。

入牧後の昼夜放牧による環境の変化、急傾斜の放牧地での運動量の増加、濃厚飼料・貯蔵飼料から生草飼料に切り替わることによる消化管内の微生物叢の変化、群生活によるストレスなどが発育に影響を及ぼす要因となっている。

表4 受託牛体格測定値(定期)

| | 測定年月 | 頭数 | 体高 (cm) | 体重 (kg) | 平均日増体重 (g) |
|-----|------|-----|------------|------------|---------------|
| 入牧時 | R4年度 | 114 | 116.7 | 244.1 | - |
| 放牧期 | R4年度 | 19 | - | 262.7 | 275.6 |
| 舎飼期 | R4年度 | 95 | - | 328.5 | 474.2 |

* 随時入牧時平均月齢:7.7カ月

* 放牧期:4月~10月の放牧30日以上 of R4年度受託牛を対象

* 舎飼期:10月~年度末までの入牧後30日を経過したR4年度受託牛を対象

(5) 繁殖成績

ア ホルスタイン種(受託育成牛と県有牛を含む)

月齢14カ月、体重340kg以上、体高125cmを目安に人工授精及び胚移植を開始した。5月から10月までを夏期とし、発情の同期化処置を行った。

同期化処置は、PGF_{2α}、CIDR等を用い、牛舎収容期間の短縮と作業の省力化を図っている。冬期は、牛舎収容後に主に自然発情により随時実施した。

表5 令和元年度繁殖状況

| | 授精頭数 | 授精延べ頭数 | 受胎頭数 | 受胎率 | 精液使用本数 |
|---------|------|--------|------|-------|--------|
| R2年度受託牛 | 11 | 27 | 11 | 100% | 27本 |
| R3年度受託牛 | 58 | 116 | 50 | 86.2% | 116本 |
| R4年度受託牛 | 8 | 9 | 6 | 75% | 9本 |

* 受精卵移植により受胎した頭数、人工授精未実施頭数は含まれない。

表6 受託牛胚移植成績

頭数：%

| 年 度 | 新鮮胚 | | | 凍結胚 | | | 合計 | | |
|--------|-----|----|------|-----|----|------|-----|----|------|
| | 移植 | 受胎 | 受胎率 | 移植 | 受胎 | 受胎率 | 移植 | 受胎 | 受胎率 |
| R3 | 10 | 6 | 60.0 | 88 | 42 | 47.7 | 98 | 48 | 49.0 |
| R4 | 6 | 2 | 33.3 | 107 | 60 | 56.1 | 113 | 62 | 54.9 |

* 外部導入胚を含む

イ 県有和牛（繁殖雌牛）

黒毛和種は宮崎県からの導入牛5頭、当场産24頭、日本短角種導入牛6頭の計35頭を繁殖に供した。また、優良繁殖素牛の確保と肉牛事業推進のため、宮崎県産導入牛を中心とした繁殖雌牛の採胚と胚移植を行った。

表7 県有繁殖和牛繁殖成績

| 区 分 | 飼養 頭数 | 繁殖 供用 | 繁殖 頭数 | 分娩 頭数 | 生産牛 | | 廃用 頭数 |
|--------|----------|----------|----------|----------|-----|----|----------|
| | | | | | 雄 | 雌 | |
| 黒毛和種導入 | 9 | 5 | 5 | 3 | 1 | 2 | 1 |
| 黒毛和種場産 | 27 | 24 | 19 | 8 | 1 | 7 | 3 |
| 日本短角種 | 6 | 6 | 6 | 5 | 3 | 2 | 0 |
| 合 計 | 42 | 35 | 30 | 16 | 5 | 11 | 4 |

表8 採胚成績

| 管 理 番 号 | 産 歴 | 採胚月日 | 交配種雄牛 | 回 収 胚 数 | 移植可能 胚 数 | 胚処理 | |
|------------|-----|----------|-------|------------|-------------|-----|-----|
| | | | | | | 新 鮮 | 凍 結 |
| 623 | 2 | R4.6.3 | 隆安国 | 4 | 2 | 0 | 2 |
| 631 | 1 | R4.7.21 | 隆之国 | 3 | 3 | 0 | 3 |
| 612 | 3 | R4.8.19 | 花国安福 | 19 | 14 | 0 | 14 |
| 38 | 8 | R4.11.24 | 福之姫 | 7 | 3 | 0 | 3 |
| 36 | 9 | R4.12.21 | 福之姫 | 8 | 7 | 2 | 5 |
| 618 | 3 | R5.2.3 | 福之姫 | 9 | 6 | 1 | 5 |
| 605 | 4 | R5.2.24 | 若百合 | 75 | 29 | 1 | 28 |
| 475 | 7 | R5.3.17 | 福之姫 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 合 計 | | | | 127 | 66 | 4 | 62 |
| 平 均 | 4.6 | | | 15.9 | 8.3 | | |

表9 胚移植成績（県有黒毛和種・日本短角種：繁殖雌牛）

| | 移植頭数 | 受胎頭数 | 受胎率% |
|----|------|------|------|
| 新鮮 | 0 | 0 | 0 |
| 凍結 | 7 | 7 | 100 |
| 合計 | 7 | 7 | 100 |

*外部導入胚を含む

(6) 衛生関係

ア 衛生対策

表10のとおり県内家畜保健衛生所の協力を得て実施。

ピロプラズマ病対策については、特にその発生防止に努めている。

表10 衛生対策

| 項目 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|---|--------|---------------------------|----|----|----------|-----|-----|-----|----|----|----|---|------------------|---------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 飼養体系 | 周年預託 A群 | 4初旬再放牧 | | | | | | | 舎飼 | | | | | 再放牧時 アカバネ病ワクチン接種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 夏期委託 | B群 | 舎飼 | | | 馴致 | 全放牧+夏期授精 | | | 舎飼 | | | | 4月上旬入牧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | C群 | 4月上旬入牧 | | 舎飼 | 馴致 | 全放牧 | | | 舎飼 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 衛生対策 | 衛生検査 | <table border="0"> <tr> <td>放牧群</td> <td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td> </tr> <tr> <td>舎飼群</td> <td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td> </tr> </table> | | | | | | | | | | | | 放牧群 | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | 舎飼群 | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽自主検査 ♥応援検査 (2週間間隔) 真菌症・乳腺腫治療 | |
| | 放牧群 | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 舎飼群 | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 衛生検査 | <table border="0"> <tr> <td>放牧群</td> <td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td> </tr> <tr> <td>舎飼群</td> <td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td><td>▽</td> </tr> </table> | | | | | | | | | | | | 放牧群 | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | 舎飼群 | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽自主検査 ♥応援検査 (3週間間隔) 真菌症・乳腺腫治療 |
| | 放牧群 | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 舎飼群 | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | ▽ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ダニ駆除 | 衛生検査時 | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | ◇フルトリン製剤塗布(2週間隔) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 吸血昆虫対策 | 放牧期間中毎日 | | | | | | | | | | | | | ETB乳剤噴霧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 細菌3種 | ▼ 1回目 | ▼ 2回目 | 細菌3種 =マンヘミア+ハスツラ+ヘモフィス | | | | | | | | | | | ← 個別入牧に応じて随時接種 → | 入牧後1週目&5週目に接種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | アカバネ病 | ▼ | | | | | | | | | | | | | 繁殖中に接種(4月~10月) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 寄生虫対策 | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | 入牧時及び放牧収容時 イベルメクチン製剤塗布 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 疾病対策 | ▽ | | | | | | | | | | | | ▽ | ビタミンE給与(5日間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下痢症対策 | ▽ | | | | | | | | | | | | ▽ | 生菌剤投与(5日間) 放牧前&収容後 蹄浴(1回/2週) (舎飼牛対象) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 蹄病対策 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | 蹄浴(1回/2週) (舎飼牛対象) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 入牧前検査 | 牛ウイルス性下痢粘膜炎・ヨーネ病・牛白血病・サルモネラ症の検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 入牧時 | 全身消毒・ビタミン剤(AD3E)+TSV-2(IBR・PI3)+呼吸器病5種混合ワクチンの接種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

イ 疾病発生状況

表12 疾病発生状況

(延べ頭数)

| 令和4年度 | 4月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|----------|----|---|---|---|----|----|----|----|----|---|---|---|----|
| 消化器系疾患 | | | | 2 | | | | | | | | 2 | 4 |
| 蹄部疾患 | 1 | 4 | 3 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 18 |
| 眼疾患* | | 2 | 1 | 1 | | 1 | | | | | | | 5 |
| 低ヘマトクリット | | | 3 | 8 | 10 | 14 | 10 | | | | | | 45 |
| 皮膚真菌症** | | | | | | | | 1 | | 1 | | | 2 |
| パピローマ** | | | 1 | | | 2 | | | | | | | 3 |
| 呼吸器系疾患 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| その他*** | | | 3 | 5 | | 1 | 3 | 3 | 2 | 1 | 1 | | 19 |

* 角結膜炎等

** 印の疾病は同一牛で再発生するため、正確な発生数は把握できない。

*** 除角後化膿、臍ヘルニア等

ウ 死亡・廃用状況

表 13 死亡・廃用状況

| | 4月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|----|----|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|
| 廃用 | 2 | | | | | | | | | 2 | | | 4 |
| 死亡 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | 2 |

第3章 草地管理事業

1 概要

4月から9月に越冬用貯蔵飼料の生産調製作業を行い、その他年間を通して家畜管理作業及び採草地・放牧地の維持管理作業を実施した。

1番草は天候良好で作業は順調だったが、2・3番草については秋口の長雨の影響ため収量が下がった、全般に予乾充分で良質な越冬飼料が生産できた。

対前年比は生草収量 94.8%、ロールの個数 97.0%であった。

(1) 採草地

越冬用貯蔵飼料の調製は、ロールベールのラップサイレージを主体に調製し、その生産量は、生草換算量で約 48.6 t であった。

本年度も引き続き乳酸菌の添加処理及びカッティングベールを行い、嗜好性の高いより安定した良質のラップサイレージの生産に努めた。

(2) 放牧地

放牧地は、造成後 40 年以上経過した傾斜地が主で、石礫混じりの火山灰土壌、牧養力低く雑草や灌木の侵入が著しい。

管理作業は人力作業が主だが、機械作業が可能な牧区は、効率的な管理作業を行い草勢の維持を図った。

(3) その他

ア 関係施設や車両・作業機の点検・整備し、安全かつ安定した作業が実施できるように努めた。

イ 一般県民を対象に、ふれあい牧場機能向上のため、「花にあふれる牧場づくり」の一環として一部採草地に観賞用のポピー種子の播種を実施した。

ウ 完熟堆肥を生産し、一般県民に無料配布し堆肥の有効活用を実施した。

2 草地管理

表1 草地管理事業実施結果

| 項 目 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 備 考 | |
|---------------------|----------|--------------------|----|------|------|------|-----|-----|-----|----------|----|----|----------------|---|
| 施 肥 | 化 成 | →→ | | | | | | | | | | | →→ | |
| | 石 灰 | | | | | | | | | | | | | |
| 堆 肥 | 散 布(採草地) | | | | | | | | | →→→→→→→→ | | | | |
| | 切 り 返 し | →→→→→→→→→→→→→→→→→→ | | | | | | | | | | | | |
| | 一 般 配 布 | → | | | | | | → | | | | | | → |
| 粗 飼 料 | 準 備 | →→ | → | →→ | | | → | | | | | | | |
| | 作 業 | →→→→ | | →→→→ | →→→→ | →→→→ | | | | | | | | |
| 草 地 整 備 ・ 更 新 | | | | | | | | | | | | | →→→→ | |
| 石 礫 除 去 | | | | | | | | | | | | | →→ | |
| 不 良 雑 草 防 | | | | | | | | | | | | | →→ | |
| 掃 除 刈 り ・ 雑 灌 木 除 去 | | | | | | | | | | | | | →→→→→→→→→→→→→→ | |
| 車 両 ・ 作 業 機 点 検 整 | | | | | | | | | | | | | →→→→ | |
| 放 牧 利 用 | | | | | | | | | | | | | →→→→→→→→→→→→→→ | |
| 幹 線 及 び 管 理 道 整 備 | | | | | | | | | | | | | →→ | |
| 牧 場 内 | 美 化 作 業 | | | →→ | | | →→ | | | | | | | |
| | 安 全 対 策 | →→ | | | | | | →→ | | | | | | |
| 桜 植 栽 地 除 草 作 業 | | | | | | | | | | | | | → | |

貯蔵粗飼料の生産調製は、ロールベールによるラップサイレージを実施した。

(1) 生産量

ア 1 番草

処理期間 5 月 25 日～6 月 30 日、収穫面積 9.3ha、生草換算量 100.3 t、194 梱包のラップサイレージを生産した。

イ 2 番草

処理期間 7 月 21 日～8 月 9 日、収穫面積 11ha、生草換算量 94.1t、159 梱包のラップサイレージを生産した。

ウ 3 番草

処理期間 9 月 15 日～10 月 4 日、収穫面積 6.3ha、生草換算 48.75t、84 梱包のラップサイレージを生産した。

表 2 採草地生産量

| 牧区 | 面積 | 1 番草 | | | 2 番草 | | | 3 番草 | | | 合計 | | | 備考 |
|-------|-------|---------|--------|-----|--------|--------|-----|--------|--------|----|---------|--------|-----|-------|
| | | 収量 | Kg/10a | 梱包 | 収量 | Kg/10a | 梱包 | 収量 | Kg/10a | 梱包 | 収量 | Kg/10a | 梱包 | |
| 1-B | 3.00 | 31,000 | 1,033 | 62 | 14,300 | 477 | 26 | 30,600 | 1,020 | 51 | 75,900 | 2,530 | 139 | |
| 1-C | 5.18 | 0 | 0 | 0 | 36,000 | 695 | 60 | 0 | 0 | 0 | 36,000 | 695 | 60 | |
| 2-A | 3.30 | 33,000 | 1,000 | 66 | 0 | 0 | 0 | 18,150 | 550 | 33 | 51,150 | 1,550 | 99 | |
| 2-1 | 1.60 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 2-4 | 1.50 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | その他使用 |
| 3-A | 3.00 | 36,300 | 1,210 | 66 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 36,300 | 1,210 | 66 | |
| 3-A' | 1.00 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 3-B | 1.50 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 全放牧 |
| 3-2 | 1.00 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 全放牧 |
| 5-A・B | 5.40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 5-C | 1.05 | 0 | 0 | 0 | 15,000 | 1,429 | 25 | 0 | 0 | 0 | 15,000 | 1,429 | 25 | 兼用 |
| 5-D | 1.43 | 0 | 0 | 0 | 28,800 | 2,014 | 48 | 0 | 0 | 0 | 28,800 | 2,014 | 48 | 兼用 |
| 5-E | 0.75 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 全放牧 |
| 計 | 29.71 | 100,300 | 1,078 | 194 | 94,100 | 883 | 159 | 48,750 | 774 | 84 | 243,150 | 1,434 | 437 | |

(2) 施肥

前年度 3 月に高度化成肥料を散布した。

堆肥散布は、一部の採草地に 11 月から 2 月に実施した。

表 3 採草地施肥量

| 項目 牧区 | 面積 (ha) | 元肥高度化成 | 高度化成 | kg/10a | 備考 |
|----------|---------|--------|--------|--------|------|
| 1-B | 3.00 | 2.000 | 2.000 | 667 | 堆肥散布 |
| 1-C | 5.18 | 1.000 | 1.000 | 193 | 堆肥散布 |
| 小計 | 8.18 | 3.000 | 3.000 | 367 | |
| 2-A | 3.30 | 1.500 | 1.500 | 455 | 堆肥散布 |
| 小計 | 3.30 | 1.500 | 1.500 | 455 | |
| 3-A | 3.00 | 1.500 | 1.500 | 500 | 堆肥散布 |
| 小計 | 3.00 | 1.500 | 1.500 | 500 | |
| 5-A・B | 5.40 | 3.000 | 3.000 | 556 | |
| 5-C | 1.05 | 500 | 500 | 476 | |
| 5-D | 1.43 | 500 | 500 | 350 | |
| 小計 | 7.88 | 4.000 | 4.000 | 508 | |
| 合計 | 22.36 | 10.000 | 10.000 | 447 | |

* 高度複合化成 = N-P-K : 14-14-14%

* 令和 4 年度は元肥のみで、追肥は行っていない

3 草地更新及び飼料作物作付実績

更新作業は、グレートプレインによる不耕起型簡易更新を実施した。

更新は牧草収穫後の再生不良の牧区の自力更新採草地の一部に「花にあふれる牧場づくり」の一環として、ポピー種子の播種を実施した。

表 4 草地更新及び草地改良実績

| 牧 区 名 | | 1-C | 2-A | 5-A, B | 5-C | 5-D |
|-----------|---|---------|---------|--------|-------------|-------------|
| 作業区分 | | 更新 | 更新 | 更新 | 台風被害のため更新不能 | 台風被害のため更新不能 |
| 利用区分 | | 観賞 | 採草 | 採草 | 採草 | 採草 |
| 更新・作付面積 | | 3.5ha | 3.3ha | 5.4ha | 1.1ha | 1.3ha |
| 実施期間 | 始 | 10月6日 | 10月27日 | 10月29日 | 11月4日 | 10月25日 |
| | 至 | 10月8日 | 10月28日 | 11月2日 | 11月5日 | 10月26日 |
| 期間内作業日数 | | 3.0日 | 2.0日 | 3.0日 | 2.0日 | 2.0日 |
| 雑草防除 | | - | - | - | - | - |
| 石れき除去 | | 3.0人 | 3.0人 | 3.0人 | 3.0人 | 1.0人 |
| 耕起及び整地 | | ロータリプラウ | ロータリプラウ | 簡易更新機 | ロータリプラウ | ロータリプラウ |
| 播種作業 | | — | 2.0人 | 2.0人 | 2.0人 | 1.0人 |
| 覆土・鎮圧 | | 1.0人 | 1.0人 | 1.0人 | 1.0人 | 1.0人 |
| 草種構成及び播種量 | | ポピー | ※1 | ※2 | ※2 | ※2 |

※1 オーチャード2 イタリアン2 ペレニアル (10a/kg)

※2 オーチャード2 トールフェスク2 ペレニアル (10a/kg)

第4章 彩の国ふれあい牧場運営状況

1 概要

「彩の国ふれあい牧場」は、県民の畜産業への理解を深めるための施設として平成9年度に開場した。本県畜産に関する資料の展示や乳製品作りなどの体験学習、山羊や羊などのふれあい等を県民に提供している。

2 ふれあい動物の管理

山羊（ヤクシマヤギ）と緬羊（コリデール）、ウサギを飼養している。イベント時に実施するふれあい動物へのエサやりは子供たちに大人気である。

3 花にあふれる牧場づくり

近年、牧場周辺のネモフィラ、アジサイ、スイセン、パンジー、マリーゴールドなどを展望広場の花壇等で栽培に取り組んでいる。

4 モーモーハウスの入館者数

表1 月別入館者数（人）

| 月 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 4 | 6,264 | 6,542 | 7,961 | 7,280 | 1,098 | 6,693 | 6,122 |
| 5 | 23,697 | 16,726 | 18,056 | 20,035 | 0 | 12,018 | 12,770 |
| 6 | 6,273 | 7,067 | 12,560 | 7,442 | 3,932 | 997 | 4,701 |
| 7 | 5,567 | 4,463 | 4,654 | 3,286 | 3,482 | 6,093 | 5,386 |
| 8 | 6,749 | 6,212 | 9,333 | 9,280 | 9,972 | 8,926 | 7,973 |
| 9 | 3,590 | 4,686 | 5,853 | 6,447 | 5,150 | 6,509 | 臨時休園 |
| 10 | 5,109 | 3,184 | 5,229 | 2,512 | 5,132 | 5,509 | 臨時休園 |
| 11 | 4,265 | 4,330 | 5,950 | 4,526 | 7,678 | 6,432 | 臨時休園 |
| 12 | 1,849 | 1,488 | 1,954 | 1,735 | 2,189 | 2,370 | 臨時休園 |
| 1 | 1,092 | 0 | 1,310 | 1,536 | 0 | 2,300 | 臨時休園 |
| 2 | 1,554 | 0 | 1,420 | 2,674 | 0 | 1,568 | 臨時休園 |
| 3 | 3,570 | 403 | 4,509 | 4,677 | 1,360 | 4,713 | 4,522 |
| 計 | 69,579 | 55,101 | 78,789 | 71,430 | 39,993 | 64,128 | 41,474 |

対前年比 64.7%

5 彩の国ふれあい牧場への入り込み客数

表2 月別入込客数(人)

| 月 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 4 | 27,414 | 31,193 | 24,269 | 6,379 | 35,559 | 51,129 |
| 5 | 90,276 | 120,320 | 110,771 | 0 | 77,210 | 98,243 |
| 6 | 41,247 | 79,742 | 66,698 | 40,081 | 6,524 | 32,330 |
| 7 | 28,032 | 38,426 | 15,361 | 32,873 | 48,039 | 50,983 |
| 8 | 34,774 | 50,412 | 43,507 | 73,286 | 67,028 | 82,616 |
| 9 | 22,534 | 23,274 | 21,416 | 34,272 | 50,129 | 臨時休園 |
| 10 | 20,506 | 27,494 | 18,360 | 38,925 | 38,158 | 臨時休園 |
| 11 | 29,599 | 34,069 | 26,569 | 52,215 | 49,416 | 臨時休園 |
| 12 | 11,384 | 15,001 | 10,838 | 11,164 | 23,130 | 臨時休園 |
| 1 | 0 | 12,292 | 11,471 | 0 | 19,884 | 臨時休園 |
| 2 | 0 | 8,755 | 19,611 | 0 | 12,944 | 臨時休園 |
| 3 | 0 | 27,799 | 28,570 | 7,723 | 44,670 | 37,024 |
| 計 | 305,766 | 468,777 | 397,441 | 289,195 | 472,691 | 352,325 |

表3 年度別入込客数

| 年度 | 人数(人) | 対前年比(%) |
|-------|---------|---------|
| 9年度 | 136,158 | 127.9 |
| 10年度 | 152,551 | 112.0 |
| 11年度 | 142,685 | 93.5 |
| 12年度 | 159,035 | 111.5 |
| 13年度 | 175,292 | 110.2 |
| 14年度 | 197,954 | 112.9 |
| 15年度 | 241,510 | 122.0 |
| 16年度 | 237,281 | 98.2 |
| 17年度 | 363,092 | 153.0 |
| 18年度 | 361,279 | 99.5 |
| 19年度 | 415,505 | 115.0 |
| 20年度 | 397,827 | 95.7 |
| 21年度 | 409,322 | 102.9 |
| 22年度 | 481,922 | 117.7 |
| 23年度 | 339,560 | 70.5 |
| 24年度 | 400,058 | 117.8 |
| 25年度 | 401,748 | 100.4 |
| 26年度 | 374,141 | 93.1 |
| 27年度 | 425,491 | 113.7 |
| 28年度 | 416,385 | 97.9 |
| 29年度 | 305,766 | 73.4 |
| 30年度 | 468,778 | 153.3 |
| 令和元年度 | 397,441 | 84.8 |
| 2年度 | 289,195 | 72.8 |
| 3年度 | 472,691 | 163.5 |
| 4年度 | 352,325 | 74.5 |

6 牛乳を利用した体験実習等実績

土日祝を中心に、手作り体験学習（バター等）を実施した。

表4 年度別体験実習受入実績

| 年度 | 人数(人) | 個人(人) | 団体(人) |
|-------|-------|-------|-------|
| 12年度 | 2,952 | 2,721 | 231 |
| 13年度 | 3,625 | 3,215 | 410 |
| 14年度 | 4,123 | 3,452 | 671 |
| 15年度 | 4,847 | 3,904 | 943 |
| 16年度 | 4,180 | 3,157 | 1,023 |
| 17年度 | 4,342 | 3,524 | 818 |
| 18年度 | 4,669 | 3,389 | 1,280 |
| 19年度 | 5,812 | 4,854 | 958 |
| 20年度 | 6,404 | 5,761 | 643 |
| 21年度 | 6,733 | 5,932 | 801 |
| 22年度 | 6,194 | 5,329 | 865 |
| 23年度 | 5,434 | 5,088 | 346 |
| 24年度 | 6,065 | 5,636 | 429 |
| 25年度 | 7,096 | 6,633 | 463 |
| 26年度 | 6,496 | 6,309 | 187 |
| 27年度 | 7,260 | 6,524 | 736 |
| 28年度 | 7,042 | 6,267 | 775 |
| 29年度 | 5,638 | 5,214 | 424 |
| 30年度 | 7,073 | 6,253 | 820 |
| 令和元年度 | 5,732 | 5,440 | 292 |
| 2年度 | 56 | 56 | 0 |
| 3年度 | 923 | 911 | 12 |
| 4年度 | 2,764 | 2,699 | 65 |

7 イベントの開催

| イベント(実施月日) | 内容 |
|--------------------|---------------------------------|
| 春祭り(GW期間) | 手作りバター体験、 ヤギのエサやり、牛群の呼び寄せ |
| 秋祭り(10月の3連休) | 手作りバター体験、 ヤギのエサやり、牛のお絵かき、クイズ |
| 県民の日! 牧場まつり(11/14) | 手作りバター体験、工作教室、 ヤギ・ウサギへのエサやり |

第5章 施設整備実施状況

1 概要

第1次基盤整備事業（S52～57）、第2次整備（S63～H元）、機能強化事業（H2～8）、団体営公共牧場整備事業（H9～12）、畜産環境総合整備事業（H20～24）により、牧場機能を整備してきたが、よりいっそうの充実を図るため、機能強化緊急対策事業を平成23年度から実施している。

2 実績及び計画

| 年度 | 工 事 名 |
|-----|---|
| H23 | 第1・第2・第4牛舎屋根・壁等改修、第3牛舎スタンション取り付け モーモーハウス屋根改修工事 |
| H24 | 和牛繁殖牛舎屋根・壁等改修工事、地下燃料タンク改修 |
| H25 | 農具庫屋根・壁等改修、和牛育成牛舎屋根・壁等改修 |
| H26 | 第5牛舎改修及び外餌場新設工事 サイロ1・2改修工事 汚水排水溝改修工事 |
| H27 | 第1～4牛舎間給餌施設 第4牛舎外給餌施設屋根・餌槽改修工事 |
| H28 | なし |
| H29 | 雨水排水溝工事、ふれあい牧場展望広場バリアフリー工事 |
| H30 | 牛舎給水施設改修工事 |
| R1 | 揚水場施設改修工事 |
| R2 | なし |
| R3 | 畜舎汚水浄化施設改修工事 |
| R4 | 放牧地給水施設改修工事、衛生舎改修工事 |
| R5 | 衛生舎付帯施設改修工事、モーモーハウスデッキ改修工事 堆肥舎改修、増設工事、浄水施設改修工事 |

*平成23年から令和4年度は実績、令和5年度は計画